

生きものひたち紀行

教育・研究

課外活動

ボランティア

代表者：理学部3年 細井 淳駿

連携先

水戸市立博物館、水戸市森林公園、水戸市公園協会(マップ配布協力先)、日立市郷土博物館、日立シビックセンター科学館、アクアワールド・大洗(マップ配布協力予定)、大洗海洋博物館(マップ配布協力先)

顧問教員

中村直美 (教育学部・講師)

参加者

細井 淳駿 (理学部・3年)
小林 健太 (理学部・3年)
櫻井 俊介 (理学部・3年)
白土 和磨 (理学部・3年)
鍋田 健人 (理学部・3年)
矢吹 健太 (理学部・2年)

プロジェクトの申請内容

(1) 概要・目的

今年で3年目となる本プロジェクトは、これまでに引き続き、博物館などと連携・協力し、県内の生き物を観察できるさまざまな自然スポットに赴き、そこに存在する生物相の調査・記録を基に『生き物マップ』の作成を行う。それと共に今年度も中高生を対象とした、『生き物観察会』を行う。

近年、環境破壊や温暖化などの問題が顕著に

なりつつある中で、子供たちの『理科離れ』が進行している。理科を嫌い・苦手になるということは、自然への関心が薄れているために起こるのではないだろうか。これは、近代化が進むにつれて幼少期に自然の中で遊ぶことが少なくなり、身近に存在する生き物たちと触れ合う経験が少なくなってしまうためではないかと考えられる。

地球は、人類だけのものではない。この地球に生きる全ての生命のものである。一人ひとりがそのことを認識し、身近な環境における生態系を人間活動と共存しながら維持しようとすることは、自然保護においては最も難しく取り組むべき重要な課題である。そのためにまず、これから世界を支えていく若い世代に関心を持ってもらうことが必要である。このため、少しでも若い世代に地域の自然と触れ合う機会を作り、興味を持ってもらう足がかりとなることが本プロジェクトの目的であり、目標である。本プロジェクトの活動が、地域の生物への関心を高める一助となり、さらに調査をして得られたデータベースが将来に役立つものになるようにしていきたい。

(2) 連携の方法・内容

それぞれの連携先(博物館など)からは助言やデータを頂き、我々は地域の身近な生物についての調査情報を提供し、協力を得ながら「生きものマップ」(パンフレット)を作成する。連携先にはこのパンフレットの配布をお願いする。

また、本年度も昨年度同様、県内の高校と連携し、高校生を対象とした生きもの観察会を開

催する。

観察会に関しては、博物館主催の観察会などに補助として協力することもある。

(3) 活動計画

本プロジェクトでは、昨年に引き続き大洗海岸、千波湖、そして今年度新たに赤羽緑地(愛称・自然観察ふれあい公園)、逆川緑地を調査地として、茨城県海岸域および水戸市近辺の生物相を調査し、データベースを作成する。また、これらの観察地点における調査結果を基にしてまとめた、パンフレット形式の『生き物マップ(名称・生きものひたち紀行)』を博物館などと協力して、作成する。

加えて、昨年度は生物の同定ミスが多くみられたことから、今年度は博物館の学芸員の方や研究者の方々にご協力いただき、より正確に生物の同定を行い、記録していけるようにする。生き物マップは年内中には完成させ、1月下旬頃までに印刷し、連携先に配布する予定である。

また、昨年度試験的に導入した観察会が好評であったことから、今年度も高校と連携し、8月27日(土)に高校生を対象とした観察会を実施する。場所は千波湖で2時間ほどを予定している。

加えて、今年度も11月13日(日)に日立シビックセンター前広場地下1階マーブルホールにおいて行われる日立科学の祭典に出展し、小中学生を対象とした簡単な観察などを用いて、子供たちに理科の楽しさを体感してもらう。

(4) 期待される結果

本プロジェクトで作成したパンフレットは、読者の地域の生物に対する知識・理解および興味・関心を高める効果があると期待される。また、地域の生物を知ること、環境保護への意識や郷土への関心も高まる成果があると予想される。

さらに、県内の高校生達に自然観察を通じて、郷土の自然環境や自然生態系の関心を高めさせ、

生物への理解を深める一助となると予想される。

また、作成したパンフレットは、大洗海岸や過去に作成した五浦海岸など、今回の震災で影響を受けた場所への海水浴客・観光客の呼び戻しの効果もあるのではないかと期待している。

プロジェクトの実施概要

(1) 生き物マップの作成・改善

本プロジェクトは、県内の博物館や自然に詳しい方との連携・協力を得て、各地の自然スポットを調査し、その場所を紹介するパンフレット式の「生きものマップ」の作成を行った。

今年度の生き物マップは、昨年度も作成したマップ千波湖、大洗海岸に加え、赤羽緑地と逆川緑地の新たな調査地のマップを作製した。また、用紙の大きさをA4サイズからB4サイズに変更し、生き物マップのデザインを変更することで、QRコードを使用しなくとも多くの情報を記載できるようにした。他、季節ごとに一枚作っていたマップ形式を廃止し、四季を一枚のマップに入れることで、印刷の無駄をなくし、さらに見やすいマップとした。

(2) 記録方法の改善

また、これまでホームページ上にあげていた調査記録をブログ形式でインターネットにあげることで、調査地の様子などをその日のうちに記録しやすくなり同定の間違いをコメントという形で指摘していただいたりすることができるようになった。

(3) 観察会の実施

生き物マップの作成に加えて本年度は茨城キリスト教学園高等学校の生物部を招き、千波湖にて観察会を実施した。また、昨年行った観察会の反省から観察会終了後にアンケートを行い、参加者たちからの評価を来年度に生かせるようにした。

(4) 日立科学の祭典への参加

昨年に引き続き今年度も日立科学の祭典へ出展した。学生が大学で習ったことを生かせるようにとの考えから、科学の祭典の出展までの間に行った学生実験の中から小中学生でも簡単にできそうなものを選択し簡略化して出展を行った。

プロジェクトの成果報告

(1) 生き物マップの作成・改善

本プロジェクトの大きな成果の一つめとして、「生き物マップ」の大きな改変を行ったことがあげられる。本プロジェクト始動時から同じであった用紙サイズ・デザインを一新し、載せる内容を吟味し選択することで昨年よりの問題であった季節ごとに違うマップに載っていることによる見づらさを改善し、始動時より数多く載っていたQRコードを削除し、インターネットを通じた情報取得を排除する代わりに、より多くの情報を載せ、かつ季節性を持たせることができた。

また、生物の同定時に博物館や生物に詳しい人に協力してもらうことで、同定ミスによる誤った情報の発信を未然に防ぐことができた。

しかし、デザインが統一されておらず、季節性が分かりにくいなど、まだまだ改善すべき点も多く、今後の課題となっている。

(2) 記録方法の改善

調査記録の方法を改善したことによって記録がより正確なものとなった。昨年までは、文体のみで生きものひたち紀行ホームページに載せていたのみであったが、いまだホームページの知名度が低く、かつ分かりにくかったので誰からも指摘されることなく、同定ミスが生じても一切わからないという状態であった。

しかし、調査記録をブログ形式にしたことによって、閲覧数が増え、さらに写真も同時に載せることによって閲覧した方から同定ミスの指摘や種名が分からなかった生物種の特典などを

していただくことができた。これにより、同定ミスが大きく減り、確かな情報を基に生き物マップを作成することができるようになった。

(3) 観察会の実施

本プロジェクトの大きな成果の二つめとして、観察会を昨年度に続いて行ったことがあげられる。

昨年度に続き無事に天気にも恵まれ、8月27日（土）に高校生を対象とした観察会を実施した。千波湖を歩きながら、富栄養化や外来種侵入など今現在起きているさまざまな題材を取り上げ、高校生たちにも分かるように学術用語などの使用は控え、それらの仕組みや何故よくないのかなどを図などを用いて説明した。

また、自然と触れ合うことの一環として湖畔にあるせせらぎ広場において虫取りを行ってもらった。高校生たち皆が幼心に戻って蝶やバッタなどを夢中になって捕まえてきて、身近なところにもたくさん生き物たちがいるということの理解につながった。

アンケートの結果より、楽しかった。またやりたい。といったうれしい声も聞くことができたが、つまらなかった。という意見もあがっており、全ての参加者たちを満足させられる観察会を行っていくことが今後の課題である。

観察会の回数が1回と少なく一般の方たちからの募集もしていないため、この点についても今後考えていく必要がある。

(4) 日立科学の祭典への参加

祭典では、予想より多くの来場者が訪れ、多くの方々に本プロジェクトの出展物に興味を持って目をとめていただいた。また、昨年に引き続き出展を見に来てくれた親子もいた。

今年は、顕微鏡を用いた微生物の観察や植物体の茎の断面の観察、キノコの胞子の観察などを行った。子供たちはとても興味深そうに観察を行い、私たちの説明に懸命に耳を傾けていた。

この活動によって、子供たちに理科の面白さを感じてもらえたと確信することができた。



調査風景



日立科学の祭典



千波湖自然観察会



オオスカシバ (逆川緑地)



千波湖自然観察会



ナベカ (大洗海岸)